

岐阜県の森林・林業

森のたより

森のジョブステーションぎふでは、
8月より無料職業紹介事業を始めました。

No.780
2018 September



FREE

ご自由にお持ちください。



●詳しくは3ページをご覧ください。

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
9月22日(土)	狩猟免許試験	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9：30～17：00 ●申込：8/24～9/7 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	岐阜大学 全学共通教育講義棟 (岐阜市柳戸 1-1) 各地域を所管する県事務所、 または環境企画課 (TEL 058-272-1111 内線 2701)
10月1日(月)～ 10月16日(火)	平成31年度 森林文化アカデミー 入学試験(第1回) 願書受付	●森と木のエンジニア科(推薦入試) 10月27日(土) ●森と木のクリエイター科(入試1) 10月28日(日) ●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ (http://www.forest.ac.jp/) からダウンロードで きます。	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp
11月4日(日)	平成30年度 緑の育成と樹木 保護・保存セミナー	●県民参加による森林づくりや貴重な樹木の保護・保 存を推進するため、岐阜県緑の博士(グリーンドク ター)協議会と共催で開催し、庭木の剪定の実技指 導などを予定しています。 ●時間：10：00～15：00(予定) ●参加料：無料 ●事前申込：必要(別途ホームページ等でご案内しま す。)	揖斐郡池田町八幡地内(予定) 公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL 058-273-7577 FAX 058-273-7547 E-mail gifu-ryokusui@mtj.biglobe.ne.jp URL http://www.gifu-ryokusui.jp



イベントカレンダー(一般向け).....	2
「森のジョブステーションぎふ」 無料職業紹介事業がスタート！.....	3
山の歳時記(157) シシウド1.....	4
「第43回東海地区みどりの少年団サマーキャンプ」を 開催しました.....	5
岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムの 活動を紹介いたします.....	5
山のおしごと(126) 「暖かい薪ストーブ、スギノアカネトラカミキリ」.....	6
「木の香るぎふの施設(67) 岐阜県森林研究所」.....	7
「わがまちの森林・環境行政(21) つくろう！輪之内の森と川」.....	8
シリーズ「森林・環境税」で「緑豊かな清流の国ぎふ」づくり(4) 「森林と人を活かす知恵(69) 薪の山から生まれた小さな器」.....	9
地域の人 東濃地域の新たな樹木の活用.....	10
治山・林道研究課題 適正な林道管理にむけて ―災害対応を経たの―考察.....	12
研究コーナー コンテナ苗の根鉢サイズを考える.....	13
普及コーナー 施業プランナー研修を展開しています！.....	14
国有林の現場から(24) 『生産性向上対策現地検討会兼伐採造林 一貫作業システム勉強会』を開催しました.....	16
伐採作業をされるみなさまへ.....	17
林業者向けお知らせ.....	17
市況.....	18

岐阜県の森林・林業 News of the forest

森もりのたより

No.780 9
2018 September

表紙 ● 森のジョブステーションぎふは、林業分野で就職を目指す人、林業に携わる人のサポートや研修等の総合窓口です。

目次 Contents

「森のジョブステーションぎふ」無料職業紹介事業がスタート!

～県内林業事業体の皆様からの積極的な求人情報の登録をお願いします～

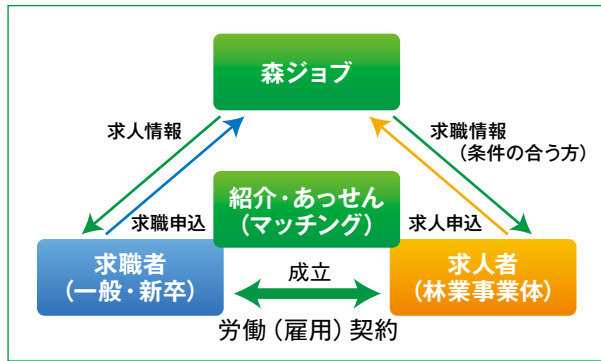
「森のジョブステーションぎふ」では、厚生労働大臣の許可を受けて、平成30年8月より、林業に特化した無料職業紹介事業をスタートさせました。

これにより、従来は、林業就業の相談があった場合でも求人情報の提供止まりであったものが、今後は、森のジョブステーションぎふが、求職者と求人者（県内林業事業体）との間に立って、求人・求職情報の紹介とあっせんを行うことができるようになります。

岐阜県内はもとより、東京・名古屋・大阪など都市部各地で行われる林業就業ガイダンス等の就業相談についても、今年度から大幅に出展数を増やして対応しているところですので、そうした機会において、この無料職業紹介事業は強力なツールになるものと考えています。



林業就業相談の様子



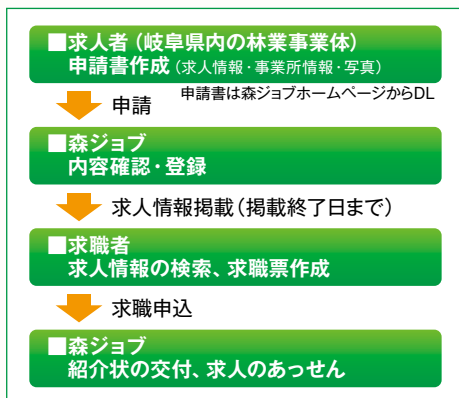
無料職業紹介事業のイメージ

また、この無料職業紹介事業のスタートに合わせ、森のジョブステーションぎふのホームページ上に、新たに求人情報検索サービスをスタートしました。

こうした林業に特化した本格的な求人情報検索サービスの提供は、各都道府県における林業労働力確保支援センターの中でも初めての試みであることから、県内外の林業分野における求職者の方々に広くご活用いただくことを期待しています。

このサービスでは、林業分野における求職者のニーズに対応するため、一般的な求人情報に加えて、林業事業体の魅力、森林技術者の魅力、地域の魅力などを紹介できるように項目を設定し、それぞれの魅力を通して、岐阜県全体の林業の魅力が伝えられるようにしていきたいと考えています。

県内林業事業体の皆様には、積極的に求人情報の登録をしていただき、それぞれの事業体の持つ魅力を発信していただきますよう、ご協力をお願いいたします。



求人情報登録の流れ



求人情報画面のイメージ

問合せ先

電話番号/0575-33-4011 (代表) ※「森のジョブステーションぎふ」を呼び出してください。

●ホームページ/<http://gifu-shinrin.or.jp/labor>

●FAX/0575-46-8408 ●E-mail/m-job@gifu-shinrin.or.jp



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「これが美味しく食べられたらねえ」、郡上市白鳥町石徹白で林道脇に咲くシシウドの花を見ながら話をしました。

シシウド (*Angelica pubescens*) は本州、四国、九州の山地に生息するセリ科の多年草で、高さは2メートルに達します。葉は2〜3出羽状複葉で、長さ1メートルに達するほど大きくなり、葉柄の基部は鞘状に膨れて茎を抱きつくようになっています。茎は太く中空

の円柱型で、上部は分枝して全体に細かい毛が生えています。この茎や葉に触れると、甘い独特な香りを放つ特徴があります。

花は早ければ7月、多くは8〜10月、茎の先端に大型の複合散形花序をつけ、白色で5弁の小花を多数つけるため、線香花火が散つたような形をしています。花は多くの蜜を出すため、アゲハチョウやヒヨウモンチョウ、ハナカミキリなどの昆虫に人気があります。

果実は両側に広い翼がある平たい楕円形の分離果で、熟すと紫色になります。タネから芽生えて花をつけるまでに4〜5年もかかり、しかも花を咲かせて果実が実ると枯死してしまいます。

シシウドの名は全体的にウコギ科のウドに似ており、山ではどこにでも見られ、ウドよりも大きくなる様子を「猪」にたとえたとか。またイノシシが食べる大きさだからとか、イノシシが冬場にシシウドの根を掘って食べるからとか諸

説ありますが、真意のほどは不明です。

地域によっては馬ウド、犬ウドの別名でも呼び、岐阜県ではサク、全国的にはサイキ、シャキとも呼ばれます。冬ごもりから目覚めたツキノワグマは初夏にはシシウドをよく食べるので、もしかするとイノシシも食べるのかもしれない。

では人間が食べるかと言えば、全国的にもごく一部の地域で、出始めの新芽を食用とした歴史があるものの、苦みを伴うアクが強いため、食用の対象になっていないのです。ただし食糧難の時代には、芽生えてから葉が開く前の茎や葉軸を採取し、太い軸だけを塩蔵保存することでアクを抜き、冬場の食料としたそうです。塩蔵した年の12月にはアクが抜けるため、お湯や流水に2〜3時間さ



▲白い5弁花を多数つけたシシウド

らして塩を抜き、煮物やいため物としました。他にも、花は天ぷらにするとアクが抜けて、結構いけるのでお試しください。

ところで、庄川流域の御母衣や白川などでは、黒色火薬の原料である塩硝を密かにつくり、富山の岩瀬家を通じて加賀藩に納めていましたが、その原料にシシウドやヨモギ、クロバナヒキオコシが利用されていました。

花が線香花火みたいなのでなく、実際に火薬の原料になっていたとは思いつつ、石徹白での調査を続けたのです。

「第43回東海地区 みどりの少年団 サマージャンボリー」 を開催しました

8月6日から8日にかけて、東海三県のみどりの少年団員72名が一室に集い、「第43回東海地区みどりの少年団(隊)サマージャンボリー」(国土緑化推進機構、三菱UFJ環境財団、愛知県・三重県・岐阜県の各緑化推進委員会主催)を愛知県新城市「愛知県民の森」で開催しました。今年は、厳しい暑さの中、室内での行事を中心に、団員同士の絆と交流を深めました。

- 一日目(8月6日)
開会式、班旗づくり、
飯盒炊さん(カレーライス作り)、
森のクイズ・雅楽鑑賞
- 二日目(8月7日)
木工工作(サイコロパズル)づくり、
川での水遊び、キャンプファイヤー。
- 三日目(8月8日)
記念写真撮影、思い出の寄せ書き、閉会式。



集合写真



カレーライスづくり



森のクイズ



雅楽鑑賞



サイコロパズルづくり



川遊び



キャンプファイヤー

三日間の短い期間でしたが、みどりの少年団のみんなは、すぐに仲良くなり、力を合わせ夕飯づくりや木工工作に取り組み、夏休みの良い思い出になりましたと思います。

岐阜県からは、海津のみどりの少年団、北方小学校のみどりの少年団の2団33名が参加しました。引率者・カウンセラー・県の職員の皆様、モリトピア愛知、三重県・愛知県緑化推進委員会など関係の皆様には大変お世話になりました。来年は三重県(熊野方面)で開催される予定ですので、みどりの少年団の皆様の参加をお待ちしています。

公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎 隆司

岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアムの活動を紹介します

「岐阜県森林技術開発・普及コンソーシアム」(以下、コンソーシアム)は、林業・木材産業分野において産学官連携による新たな技術の開発やその普及を図るために平成26年9月に設置されました。涌井史郎森林文化アカデミー学長を理事長とし、現時点で県内外の103者の会員により構成されています。

コンソーシアムでは、テーマごとに6つのワーキンググループ(以下、WG)を設け、それぞれ課題解決に向けた活動や新たな技術開発等を実施しています。主な活動としては、欧州製の獣害防止対策資材(Tubex)の県内全域での効果検証や早生樹(コウヨウザン)の試験施工に取り組み、また、4事業体を対象に木材の生産性の向上に向け、事業体ごとに現場で発生している課題を抽出して、作業性や効率性を向上するための方法を経営側に提案し実践していく「改善実施プロジェクト」に取り組んでいます。

また、会員企業から物品の寄附を受け、森林林業分野での活用を検証する取り組みも実施しています。大和リース(株)より寄附をいただいた気象観測等支援システム「PaddyWatch」を森林環境の変化等の観測に使用しているほか、(株)クボタよりトラクターを寄附いただき、現在は美濃加茂市内の里山林整備にトラクターを活用できないか実地検証を行っています。



▲トラクターによる竹林整備時の竹の搬出



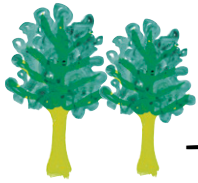
▲Tubexを併用したコウヨウザンの植栽



▲会員企業による企業説明会の様子

さらには、森林文化アカデミーの学生と会員企業とのマッチングを図るための企業説明会の開催も実施しています。10月16日にはWGの中間報告会とともに、外部の講師を招いての講演会を行う予定としています。

今後もコンソーシアムでは課題解決に向けた取り組みや、会員内外のビジネスマッチングにつながる取り組みを支援していきます。企業・団体様でご関心のある方は、お気軽に事務局までご相談ください。



山のおじまむし



— 暖かい薪ストーブ、スギノアカネトラカミキリ — 【第326回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

平成30年5月20日。「Mさんが亡くなりました」とK氏から電話があった。病名は白血病。不治の病と言われている難病だ。M氏がこの病気にかかっているのを知ったのは今年の1月中旬。知人から、「M氏が大病を患っているらしい」と聞いたからである。「やはりそうだったか」私は胸が詰まった。と言うのは、私はM氏と30数年年賀状のやりとりをしているのに、今年に限って来なかった。「病気ではないのか」と悪い予感がしていたからである。すぐにM氏宅へ電話をした。奥様が出られた。「主人は昨年白血病になり、入退院を繰り返しています」と気落ちした声で話された。私は返す言葉がなかった。そのとき「野平くん、久しぶり」とM氏の声。しかし、声は小さく弱々しかった。いつもの声ではなかった。抗がん剤治療の苦しさや、野外で仕事や運動ができないことがさびしいと話された。これが、今のM氏か。暗い気持ちになった。かつてM氏は私の上司。仕事では2年間であったが、その後も私的な付き合いは続いていた。そのM氏とはもう会うことができない。M氏との思い出が次々と脳裏に浮かんで来た。

× × × ×

M氏が転職してきた頃は、スギカミキリ、スギノアカネトラカミキリ、松食い虫の林業害虫の全盛期?であった。それにカモシカ被害が大きな問題になっていたときでもあった。この難題に2人で取り組んだが、それなりの成果を得て評価されたと思っている。それは、M氏と一緒にいたからである。M氏とは2歳違いのほぼ同年代。このためお互いが意見を言い合い、協力しながら自由に仕事が出来たからである。それにM氏は人間的にも素晴らしい。威張ったり、自分を誇張したりすることはなく、きつい作業にも嫌な顔をされなかった。理屈より行動。こんな人だった。松食い虫被害防止試験の時、大きな松を10本伐採することになった。ところが伐採する人が見つからず困ってしまった。するとM氏はチェーンソーを持参し、自分で伐採してしまったのである。そのチェーンソーを扱う手さばき。プロの伐採士のようにであった。ある時M氏に「なぜ、チェーンソーを買われたのですか」と聞いたことがある。M氏は「前から薪ストーブで暖をとりながら食事をしたかったこと。その薪を奥様の実家の山林で調達できるようになった」からだという。この行動力というか執念。すごいと思ったものだ。数年前、久しぶりにM氏宅を訪ねた。相変わらず薪ストーブであった。ところがそのストーブは最新鋭の高級品。これを使うために部屋を改造し、長い煙突が屋根裏までのびていた。暖かくて居心地がよかった。このストーブで暖をとれなくなったM氏。それを思うと胸が詰まる。

× × × ×

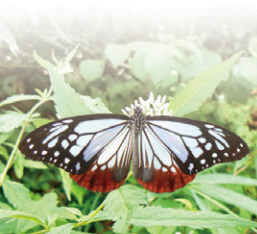
当時の私はソウムシとカミキリムシの大好き人間。仕事の合間に捕虫網を振り回していた。ある時、「こんなのが採れた。珍品だ」とM氏の前で喜んだことがある。これを見たからか、M氏は自分でも虫を採るようになった。そして「この虫は珍しいくない」と言って私に渡すようになった。採った場所は奥様の実家の山林周辺が多かった。わずかの期間であったが、92種類198匹を採集された。この中で目をひいたのはトウキョウクモソウムシとスギノアカネトラカミキリである。トウキョウクモソウムシは普通種なのに私自身1匹しか採っていなかった。それを3匹も採集されていたのである。私も採りたい。早速その場所へ出かけた。15匹採れた。それを手にしたときの喜び。今でも覚えている。スギノアカネトラカミキリはヒノキの害虫である。しかし、採るのは難しかった。成虫を採るにはヒノキの枯れ枝を探さなければならないからである。この作業がきつい。誰も挑戦しなかった。このためスギノアカネトラカミキリは害虫だけど貴重種。こんな表現をしたものである。それをM氏は採った。薪用にヒノキの枯れ枝を切っていたら出てきたのだという。そのスギノアカネトラカミキリは今でも私の標本箱で光り輝いている。



▲枯れ枝から脱出した、スギノアカネトラカミキリ

× × × ×

M氏の葬儀にはかつての同僚がたくさん参列していた。祭壇に飾られたM氏の笑顔。在りし日のM氏が思い出された。読経が終わり、いよいよ最後のお別れ。変わり果てた顔を見ているうちに涙が出てきた。悲しかった。葬儀の後、数人で食事をした。皆が口にしたのは「何故M氏が逝ったのか」だった。M氏は、酒は飲まない。タバコはすわない。趣味は体を動かすこと。剣道は4段で週に4回子供たちに教えていた。それと登山と長距離スキーもやられた。毎年北海道へ出かけ50km走に参加していた。人間ドックは特に悪いところはなく、医者とは無縁の健康老人だったからである。これに比べ今食事をしている連中は医者通いのヨボヨボ老人だ。しかし、酒だけは今でも現役で、每晚晩酌をしているという。そのうちに飲み助たちの酒談義。結局「酒は長寿の薬。これからもガバガバ飲もう」ということになった。「Mさん、笑えるでしょう。この飲み助連中の言い草。天国で大笑いしてくださいよ」。さようなら。合掌。



岐阜県森林研究所

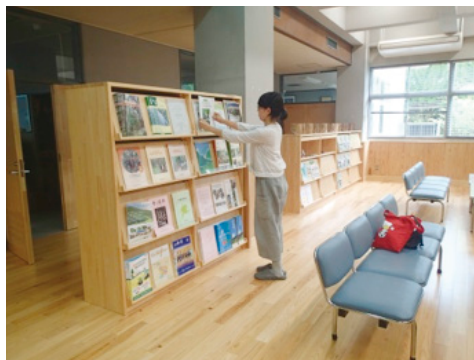
岐阜県美濃市曾代1128-1



施設全景

施設概要

事業年度	平成29年度
事業主体	岐阜県
構造・延床面積	RC造 1517.2㎡
施設用途	研究施設
木材使用量 使用樹種	3.86㎡ スギ・ヒノキ
全体事業費	18,552千円（工事）
設計者	株式会社 川上建築事務所
施工業者	株式会社 後藤建設
工期	平成29年11月21日～平成30年3月7日



施設の経緯

岐阜県森林研究所は、森林・林業に関する試験研究を行う機関です。

施設は昭和45年に設置され約50年が経過しました。応接に使用する1階ロビーの壁は冷たいコンクリート、床は老朽化によるひび割れや剥がれがあり、色彩に乏しくみすぼらしい状態にありました。

そこで、県産のスギ、ヒノキを用いた内装とし、木製備品を導入した結果、温かみのある雰囲気となり、研究所を訪問される皆様へ木材利用の推進をPRできる場としても活用するようになりました。



ここに注目!!

- 今までは昼間でも蛍光灯が必要なほどに薄暗かった室内が、木をふんだんに使ったことにより、明るく、快適な部屋になりました。まさに、森林を扱う研究所らしい内装に様変わりしました。

利用者の様子

- ロビーには、森林・林業・林産業に関する情報誌や、研究成果をまとめたパネルを展示しています。訪問される皆様からは「木のぬくもりを感じながら、森林に関する情報を知ることができる。」と評判です。

■問い合わせ先

岐阜県森林研究所 TEL 0575-33-2585



つくろう！輪之内の森と川



輪之内町の概要

輪之内町は、長良川、揖斐川の二大河川が南下する岐阜県の西南部に位置し、四季折々の美しい田園風景、緑豊かな自然が町の貴重な宝であります。だれもが憩える空間であるために、潤いある景観づくりや親水環境の充実に努めています。ここで、森林環境に係わる主な事業を紹介します。



▲本戸 田んぼアート

ぎふ木育ひろば

輪之内町立図書館に「ぎふ木育ひろば」を設置しました。県産材で作られたヒノキのテーブル、回転書架を置いて木のぬくもりを感じながら本を読むスペースを設けました。

また、木のおもちゃ「木製くるま」「めたもつく」「まあるいつみき」などを常設し、小さなお子様連れの親子や図書館を訪れた子

ども達が楽しんで木に触れたり、本を読んだりすることが出来ます。輪之内町に、森林はありませんが、図書館周辺の公園や遊歩道、家の庭に植わっている木、身近な木製品などについて関心を持ったり、導入したおもちゃで木の温かみ、やさしい香りや色合い、柔らかい音を感じてもらえることから、木育を始めていけたらと思っています。



▲町立図書館 ぎふ木育ひろば



環境学習

清流の国ぎふ森林・環境税を活用し作成した、環境副読本を小学3年生以上に配布



▲木のおもちゃ

し、学校での環境学習に利用しています。また、小学校周辺における水環境・生物環境について、岐阜大学との連携で一緒に生き物採取を実施し、生き物の生態や水環境について講義を受け、水質状況の変化により生物に与える影響などを学習しています。中学生についても、グラウンドワーク輪之内の活動である「ふるさとの川大樽川を美しくする町民参加大会」などの清掃活動への参加やふれあいフェスタにおける「環境コーナー」の出展など、環境保全への意識は高く、住民に対する環境意識の啓発に一翼を担っています。



▲環境副読本



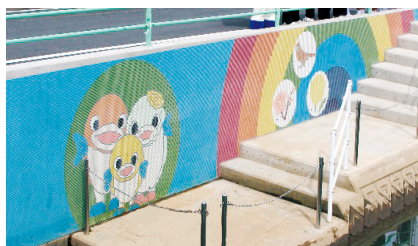
▲グラウンドワーク輪之内の清掃活動

親水広場のタイルアート

町地域協働水質改善協議会の事業として、昨年、親水広場を整備し、中学生デザイナーの壁画タイルアートを施工しました。多治見市並びに笠原陶磁器工業協同組合、多治見市美濃焼タイル振興協議会から絵の色解

析及び1cmサイズのタイルを約十一万個ご提供いただき、中学校美術部が制作しました。川をきれいにしようとの思いを呼びかけるデザインには、町の鳥、木、花と町のキャラクターかわばたくんファミリーが描かれています。

この親水広場において、中江川の水質調査を定期的に行い、今後も水質改善に取り組んでいきます。



▲親水広場のタイルアート



▲中江川の水質調査

すべては、「緑きらめく町」「緑きらめく地球」のために。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0584-69-3111

輪之内町役場 教育課住民課まで

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

4

平成24年度より県民みんなで豊かな自然環境を守る仕組みとして導入した「清流の国ぎふ森林・環境税」は、平成33年度末まで5年間延長されました。税活用事業の内容も見直しをしましたので、新しい内容の事業を含め連載で紹介します。

ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業

教育・福祉関連施設に、岐阜県産材で作成された机や椅子等を導入することに対して、支援を行う事業です。

■平成30年度 事業概要

- (1) 対象事業者：市町村、学校法人、社会福祉法人等
 (2) 対象備品：机、椅子、教卓、ロッカー、下駄箱、児童用ベッド等
 (3) 補助金額：導入に要した経費の1/2以内の額（ただし、机・椅子は、1セットあたり上限18千円）

■平成30年度 支援予定団体

事業主体	施設名称	所在地	導入予定製品(平成30年4月時点)
(社福) 登豊会	うれしのみん家の家	岐南町	椅子、テーブル 他
(社福) 八実会	認定こども園石山保育園	海津市	木製パーテーション 他
関市	市内小学校	関市	児童用机(天板)
郡上市	たかす児童館	郡上市	木製平均台
美濃加茂市	山之上小学校	美濃加茂市	児童用机(天板)
	市内保育園	美濃加茂市	机、椅子
白川町	町内小学校	白川町	児童用机(天板)、下駄箱
瑞浪市	瑞浪北中学校	瑞浪市	生徒用机及び教卓(天板) 他
多治見市	精華小学校附属愛児幼稚園	多治見市	椅子、テーブル 他
中津川市	中津川市立西小学校	中津川市	木製机・椅子
恵那市	おさしま二葉こども園	恵那市	スタッキングチェア、テーブル 他
(学法) 恵峰学園	すずめっこ杉の子幼稚園	恵那市	テーブル、スタッキングチェア
高山市	市内小中学校	高山市	木製机、椅子

※その他、「ぎふ木育ひろば認定要領」で定められた『ぎふ木育ひろば』への支援も予定しています。

■平成29年度 導入事例



にのこの保育園
(可児市)



バンビの森
(郡上市)



下呂市中央児童館
(下呂市)

【利用者の声】

- ・ぬくもりのある雰囲気、室内があたたかみのある明るい感じになった
- ・木の香りが落ち着く
- ・導入をきっかけに、子どもから庭や近所の樹木に目が向くようになった



●小径木は薪の山？

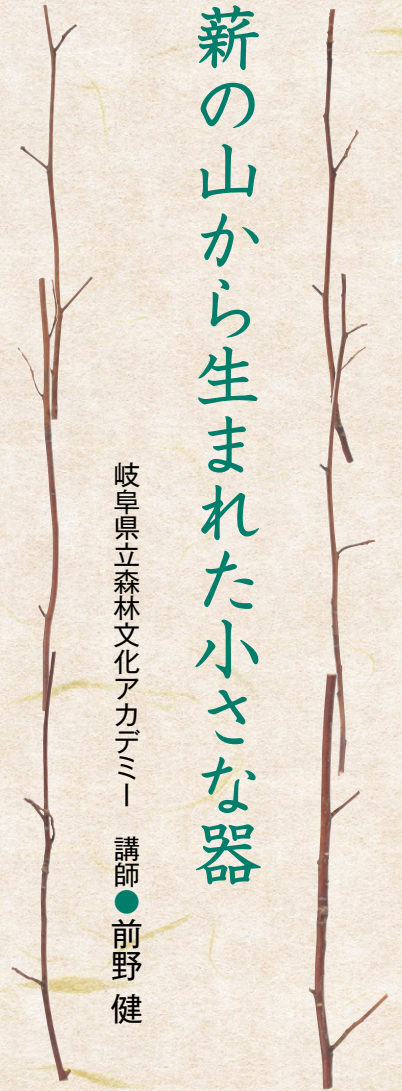
アカデミーのアトリエには、演習林の伐採実習や里山の整備で切られた直径十センチ〜十五センチ程度の樹種もまちなちな小径木が材料庫にストックされています。これらはグリーンウッドワークという木工技法でスプーンや椅子を作る材料になります。今までは薪がチップにしなければならなかった小径木・広葉樹も使い方が次第で用途はいろいろあるのです。



ヤマザクラ、ホオ、アオハダ、アワブキ、タカノツメなど、アカデミーの材料庫には、演習林や実習で整備した里山で伐採した小径広葉樹がたくさん保管されている。

薪の山から生まれた小さな器

岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ●前野 健



しかし、なかなか全てが上手くいくように世の中でできていないもので、グリーンウッドとはいわゆる「生木」のこと。数か月たち木が乾いてドライウッドにならなくなると、再びこの小径木は薪にしなくてはよく燃えるので薪の適材と言えるでしょう。

●薪でも良いが…

木材の有効活用を考える上で、薪として燃やすのも悪くはありませんが、そこはプロのモノヅクラーとして、この半乾きの小径木を使い、何かしらの製品化を目指したいと考えました。そこで私が目を付けたのが木工旋盤というツールです。

●小径木と木工旋盤

木工旋盤とは、機械に固定した木材をモーターの力でぐるぐる回し、そこに刃物を当てて形を削り出す木工機械です。身近な物では、お椀や野球のバットなどがこの木工旋盤で作られています。今回、

●小径木の長所を生かして

本来、木材は乾燥が進むにつれて年輪の芯から割れが入るため、丸太から材料を切り出すときには芯を避ける必要があります。

アトリエの小径木を使って、直径が十センチ程度の材から、小皿や小鉢、コップなどを作ってみました。普段使いにちょうど良い素朴な器ができました。



アオハダのマグカップとアズキナンのお皿。いずれも木工旋盤で製作したもの。お皿の上に乗っているのはウワミズザクラで作ったお団子型の独楽。

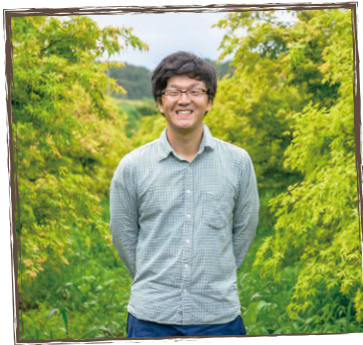
しかし、(樹種やサイズにも左右されますが)小径木の場合は、この芯割れを起さない材料があります。左の写真のヤマザクラのカップは直径八センチの芯持ち材を使って作りました。カップの側面を見てみると芯持ちの年輪が見えます。これは木工を多少知っている人が見ると「あれ？芯持ちなのになんで割れていないの？」と思う、珍しい小径木ならではのデザインなのです。



芯持ちのヤマザクラなので、器の前後に年輪が見える。このような意匠は大径の木では芯が割れるため作るのが難しい。

●雑木の木工は面白い！

身近な木を伐採して小径木でモノ作りしてみると、市場や材木店から手に入れた木を扱うのとは、まったく異なった感覚を感じると思います。一本一本の木の個性がわかったようで、まるで山に生えている木とすごく距離が近づいたように感じられるのです。



本間氏

東濃地域の新たな樹木の活用

(株)もみじかえで研究所 代表取締役

本間 篤史さん

今回は、森林・樹木の新しい活用と地域活性化に取り組んでいる(株)もみじかえで研究所 代表取締役 本間篤史さん(35才)にお話を伺いました。

本間さんは、愛知県小牧市の出身で、子どもの頃から水生生物を飼うことや食べることが好きだったことから、東京海洋大学に入学し魚の養殖方法、水産物の加工、漁法について学ばれました。

その後、大学院に進み、機能性食品の研究素材を探していたところ研究室の窓から見えた1本のモミジから、本間さんと「樹木」との出会いがあり、以後研究、起業へと進展していきました。

また、大学院在学中に南米などから食品素材を輸入する商社に入社し、マーケティング、素材探索、顧客への営業等に関わったことが現在の礎となっています。

モミジの効果

大学院での研究の結果、モミジの葉には抗酸化作用のあるポリフェノールやβカロテンといった成分が含まれていることが分かりました。これらの成分はメタボや老化防止に効果があるとされています。また、味はラズベリーのような酸味で、食品に向いています。

現在の状況

多治見市起業支援センターの協力により2011年に会社を創立し、2017年に多治見市甘原(つづはら)町に会社を移転しました。現在約4haの土地で、約4000本のモミジを従業員10名で育成・収穫しています。年間収穫量は約1.3tにもなります。

モミジ葉は、白川茶の工場で加工され、「もみじ茶」「もゆるはもみじスパークリング」「もゆるはシャーベット」として商品化し多治見市内等で販売されています。「もみじ茶」は、名探偵コナンの映画イベントでも使用されました。



もみじ茶(左)
もゆるはもみじスパークリング(右)

地域活性化

「本間さんは、地元自治会、農業法人や企業からなる「三郷活性化協議会」のメンバーとして農産物や観光のPRをしています。PRの結果、モミジ葉から抽出された赤色のエキスは、東京の一流料理店で使われることになりました。

2017年春には、モミジをもっとPRするために、活性化協議会、JA等の協力を得て、公園用地にモミジの苗を植樹しました。筆者もボランティアとして協力させていただきました。

地元オープンした喫茶店では、モミジ商品や、地元農業法人の育てたイチゴ、マイクロ野菜を使った料理を提供し地元を盛り上げています。

商品のPR

当研究所の事業内容や商品は、岐阜新聞

他、NHK総合「あさいち」、ぎふチャン「鈴木ちなみの元気のみなもと」等のマスメディアで紹介されました。東濃農林事務所農業普及活動発表会では地域の農業者に対して事例発表されました。

本間さんのこれからの目標

「これまで来られたのは人の縁。受け入れてくれた地域の人々に恩返しをしたい」
「日本、世界に多治見市産のモミジを売り込み、観光農園を整備して、国内外から観光客を呼び込むのが夢」と熱く語られました。



採取状況

お話を伺って

本間さんの地域活性化への強い思いに共感することが出来ました。

本間さんには、新たな樹木の活用推進の牽引者の一人として、地域の発展のため引き続き活躍されることを期待します。

また、今後甘原町がモミジだらけの町になり世界中から観光客が多く訪れる事を願っています。

〈追伸〉・森林を愛する皆様へ。
モミジ商品をお試しを願います。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0572-231-1111

東濃農林事務所 林業普及指導員 藤井 敦まで

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会で発表された研究課題を紹介します。

適正な林道管理にむけて —災害対応を経ての一考察—

中濃農林事務所林業課（現・農村振興課） 古川 明里

課題と検討事項

① 災害時や異常時の対応事例

平成29年8月、中濃農林事務所が管轄する関市・美濃市地域では一時間最大56mm、24時間累計247mmを観測する大雨により、関市では3年ぶり、美濃市では11年ぶりの林道災害が発生しました。

今回の災害では6路線が国の災害復旧支援の対象となりましたが、それ以外にも小さな破損や異常個所が複数発生しており、併せて早急な復旧対応が必要となりました。

しかしながら、管内のみならず県内の市町村では、林道管理を行う農林課や産業課といった部署では、限られた人員配置の中、担当者が林道以外にも複数の業務を担当しており、人的な余力は全くありません。

また同時に、財政的な余裕もなく十分に予算を手当てすることも不可能な状況であり、円滑に災害対応していくためには何らかの対策が必要になりました。

そこで、災害対応の際の慣例となっている業務手順を見直すなど、担当レベルでできる改善策について、市担当者と検討しました。



横祖線の路肩崩壊

林道は県道や市道にくらべて構造が簡易なことから、小さな法面崩壊などの異常が発生しやすく、通行に支障が発生した場合には、その都度、職員が撤去作業を行う又は建設業者に発注して対応してきました。

しかし、今回のような大雨の後には、林道に限らず多くの災害対応や安全確認業務が必要になることから、土木担当部署などが行っている建設業組合との災害協定の締結など、災害対応の集約的な発注の取組みの中に林道も取り込んでいく自治体がありました。

② 利用状況に応じた改良工事

今回の豪雨では、林業活動の主翼を担う基幹林道中濃線も被災をしました。中濃線では沿線3つの計画団地からこの5年間で約8千㎡の木材が搬出されており、この大雨後、S字カーブを中心に舗装には多数の穴やひび割れなどの傷みが確認されました。

一方、中濃線は林業活動以外にも、サイクリング、ボルダリング、登山とさまざまな形態の利用人口が増加しており、地元美濃市も観光資源として期待を寄せていることから、林道としての機能以外にも配慮が必要になっていきます。

現在は林道の規格による簡易舗装が施工されていますが、傷みややすいカーブなどでは部分的に強度の舗装を施工するなど、利用状況にあわせた改良工事の適用も考えていく必要があります。



中濃線の舗装(路盤)破壊

③ 林道利用者との連携対応

路面の穴あきや落石など小さな異常は、安全な通行に影響するのは当然のこと、次の災害の原因や予兆ともなります。

そのため、地元からの通報や職員パトロールにより異常の把握に努めています。タイムリーに異常を発見するには至っていないのが実情です。

そこで、日ごろ林道を利用する林業事業体に、利用者として林道管理に協力できるかなどを聞き取りをしたところ、「木材や重機運搬など重量物の通行で林道に負担をかけているし、日ごろの業務を通じて見回りなど協力できる」という意見がありました。

林道を利用する林業事業体からリアルタイムに路線の状況を把握できる仕組みができれば、異常が小さなうちの対処や、中期の補修計画が立てられるなどの確かな林道管理が期待できます。

林業事業体と連携し、異常早見表や位置情報つき写真をメールで通報するなど、効果的な仕組みづくりが考えられます。

以上、3つの視点から林道の適切な管理について述べましたが、林業を支える際には地域振興をも支えるインフラとして、林道が安全に利用されるよう、これからも管理者や地域の方たちとともに考えていきたいと思っています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL0575-3314011(代)

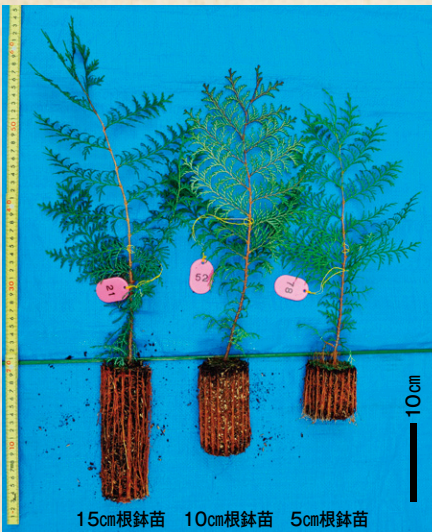
中濃農林事務所林業課まで

コンテナ苗の根鉢サイズを考える

森林研究所 ● 渡邊 仁志

苗木の根鉢を低くしたら？

再造林を低コストかつ確実に実施するため、「早く植えられる」コンテナ苗に期待が寄せられています。一般的に、コンテナ苗はコンパクトな根鉢により植え穴を小さくできるといわれています。しかし、根切りをした裸苗の根系はコンテナ苗の根鉢より小さい場合があるため、植え穴が掘りにくい条件下ではコンテナ苗の植栽効率が上がらない事例がみられます。そこで、根鉢の高さが異なるヒノキ・コンテナ苗を育成し、得苗サイズ、植栽時間および植栽後の成長を比較しました。



15cm根鉢苗 10cm根鉢苗 5cm根鉢苗
図1 根鉢高さの異なるコンテナ苗

地へ植栽したところ、植え穴掘りの時間は15cm、10cm、5cm根鉢苗の順に短くなり、一本あたりの植栽にかかる時間も同様に短縮されました。根鉢を低くすることは、目論見どおり植栽のスピードアップに貢献できると考えられます。

根鉢の高さを15cm（容量約300cc、流通品と同等）、10cm（同約200cc）、5cm（同約100cc）に調整したコンテナに一年生稚苗を移植した後、一年間育成し、根鉢高さが異なる苗木を試作しました（図1）。このとき、5cm鉢苗の樹高はその他の苗木より低い傾向にあったものの、どの条件も岐阜県の出荷規格（樹高25cm以上で根鉢を形成していること）を満たしていました。これらの苗木を五月に下呂市の皆伐跡

低い根鉢苗の成長は？

植栽後の成長をみると、5cm根鉢苗の樹高成長量は他の苗と同程度でした（図2a）。その結果、得苗時にあった樹高差は、植栽一年目にはみられなくなりしました。一方、5cm根鉢苗の根元

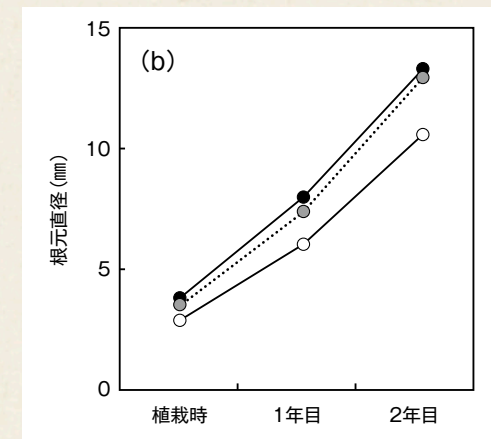
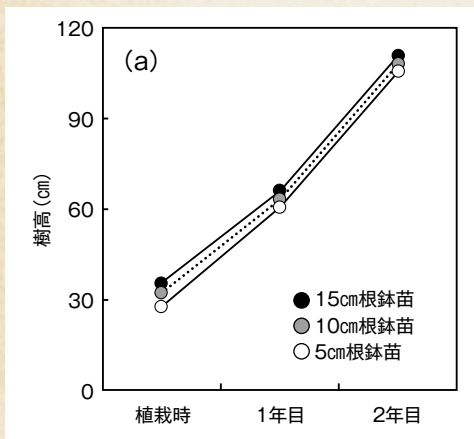


図2 苗木の植栽時および植栽1～2年目期末の樹高、根元直径

直径と直径成長量は、他の苗に比べて小さいままで（図2b）、徒長気味の傾向がありました。なお、多雪地域では雪による苗木の引き抜けが問題になりますが、今回の植栽地では、徒長傾向にあっても苗木の枯死や引き抜けは発生しませんでした。この原因は、植栽場所が少雪地域だったことに加え、冬までに根が地山に伸長できたからだと考えられます。つまり、この技術は、雪の少ない地域において春に植栽する場合に適用できそうです。

このように、ヒノキ・コンテナ苗の根鉢高さを制限して育成する方法は、得苗率や植栽後の成長への影響が小さいことに加え、植栽効率や（ここでは議論しませんが）育苗に要する資材費の点では、有効だといえるでしょう。現在流通しているコンテナ苗の根鉢容量はせいぜい二種類ですが、樹種、植栽場所や時期、目的に応じた複数の苗規格があつてよいと思います。今後は、苗木の生理特性を加味しながら、適した根鉢サイズを検討する必要があります。

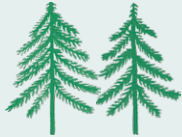
● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-533-2585

森林研究所まで



施業プランナー研修を展開しています！



■森林文化アカデミー 森林技術開発・支援センター 林業普及指導員 谷口 嘉靖

はじめに

岐阜県では、施業プランナー研修を平成二十年度から実施しており、二十九年度までに延べ百四十二名が育成研修を修了しています。

研修は、施業プランナーとしてのレベルによって「育成研修」、「技術維持研修」、「上級研修」の三コースを実施しています。



▲H29年度 育成研修の修了式

施業プランナーの育成

第二期岐阜県森林・林業担い手育成総合戦略(平成二十九～三十三年度)に基づき林業担い手確保・育成支援事業として施業プランナーの育成に取り組んでいます。

その中で市町村森林整備計画に即して森林管理を進めるには、森林総合監理士(フォレスト)、地域森林監理士、施業プランナー、フォレストワーカー等、森林作業道作設オペレーターなどの五つの人材が連携して機能することによって森林経営計画に沿った森林整備が進むものと考えています。

研修の開催状況等

平成二十九年度実績

- ・ 育成研修 十四回・九名
- ・ 技術維持研修 五回・九名
- ・ 上級研修 三回・六名
- 平成三十年度実施状況(予定含む)
- ・ 育成研修 六回・十四名
- ・ 技術維持研修 五回・八名
- ・ 上級研修 三回・三名

育成研修

提案型集約化施業を実践し、森林経営計画の作成・実行監理ができる人材として施業プランナーを位置付けています。その主たる業務である森林経営計画の作成等を行うために最低限必要な知識習得に向けて施業プランナー育成研修を行っています。

研修対象者としては、森林所有者に対して施業提案に取り組み森林組合以外の林業事業体も参加することができます。

また、育成研修では、平成三十年度からは、集合研修回数を減らす一方



▲育成研修第1回の研修状況(アカデミー)

技術維持研修

で、受講生の効率的な知識向上を図るため、農林事務所林業普及指導員の指導担当を配置し、丁寧な支援を行うOJT研修を実施しています。

今年度の育成研修では、最適な作業システムを選択できる人材、主伐・再造林の効率化に対応できる人材、獣害防止技術を展開できる人材の各能力の習得も目指しています。

施業プランナー技術維持研修は、施業プランナー育成研修の修了者等が森林経営計画の実行監理を適切に行うことができるよう、資質維持や時機に応じた知識を習得してもらうために実施しています。

岐阜県では「施業プランナー」育成にかかる研修を修了し、業務実績を有した者を「岐阜県森林経営プランナー」として登録・公表しています。この森林経営プランナー及び上級森林経営プランナーの登録者を対象に、おおむね五年毎に技術維持研修を受講していただいています。

上級研修

施業プランナー上級研修は、施業プランナーとして現場で生じた問題を自ら解決できる人材、また他の施業プランナーを指導することができる人材を育成する研修です。

三年間で一カールの研修としており、①森林所有者への説明、②計画から進捗管理、③マーケティングをテーマに集中研修しています。

なお、上級研修は、地域森林監理士養成講座に段階的に移行するため、平成三十年度で終了となります。

森林施業プランナーの認定

「森林施業プランナー協会(東京)」において、「森林施業プランナー認定」がなされています。岐阜県が行う施業プランナー研修は育成研修・技術維持研修とともに同協会の認定レベルの研修と認められており、森林施業プランナー認定を取得する場合において、特別一次試験、特別二次試験として通常の認定取得の試験内容よりも簡易な受験内容で済むよう軽減措置が講じられています。



▲第1回育成研修 先輩プランナーに質問

平成三十年度育成研修

第二回育成研修は、五月十一日に開催し、自己紹介の後に、林業の現状と施業プランナーの役割(恵みの森づくり推進課担当講義)、安全管理(林災防指導員講義)、プランナー業務の実際(先輩の岐阜県森林経営プランナー講

義)、森林情報の収集方法(林政課担当講義)を行いました。受講生は、意欲と期待が高まる中、先輩プランナーからの助言やGIS情報の高度な検索の効果を感じ、研修参加に満足している状況でした。

第二回育成研修は、六月一日に山口市の「美山構造センター」及び中原林業所有林で、目標林型と施業方針の設定(アカデミー横井教授講義)、森林経営と施業方針(中原丈夫指導林家現地講義)を行いました。施業プランナーは請負型林業に欠かせない存在であり、ビジョン(目標)の持ち方、プラン(施業案)の考え方を立案するのが施業プランナーであること等が説明され、顧客(森林所有者)と組織(林業事業体)に利益をもたらす林業のプロフェッショナル(技術者)として期待されていることが認識されました。中原林業では、二百八十年の歴史と三百ヘクタールの所有林という経営を現地視察し、年齢別の取組み等の詳細説明を受け、受講生からは、林分をよく観察し、施業方針の選択肢を複数



▲第2回育成研修 現地講義の状況

持ち施業を選択する取組みを試したいとの意見が多く出ていました。

第三回育成研修は、七月十日に開催され、アカデミー林業普及指導員及び森林研究所研究員から林内路網の基礎知識の講義として作業道の開設計画、林業機械作業と林内路網、図上計画と線形踏査のポイント、地形の読み方、カシミールを含むGPS活用の講義の他、グループで路網計画演習を行いました。受講生はこれまで取り組んでいなかった部分の知識・技術習得に関心が高く、グループ演習でみんなの意見を集約する重要性を理解していました。



▲第3回育成研修 グループでの路網計画演習

今後は、第四回の育成研修で、森林経営計画、プレゼンテーション技法、生産性の把握とコストの講義を行い、第五回で木材流通販売の現地調査と「進捗管理とコスト管理(日吉町森林組合)」の講義を経て、最後の第六回は二月にOJT研修での検討結果も踏まえ各受講生から実績発表する予定としています。

平成三十年度技術維持研修

技術維持研修は、九月以降に五回開催で「施業による森林流域環境保全・改善のしくみとその効果に関する簡易モニタリングの方法及び地域森林計画への利用(岐阜大学篠田成郎教授)」、機械化・路網・生産システムによる低コスト木材生産(アカデミー)、低コスト造林・獣害防止について(森林研究所)、森林管理提案営業(農林業支援センター)、森林・林産業の最新動向(林材ライター赤堀楠雄氏)を予定しています。

平成三十年度上級研修

上級研修は、所有者への説明として、五月十八日に「コミュニケーションとプレゼンテーション」で京都府立林業大学の客員教授・藤野正也氏に講義していただき、コミュニケーションとはキャッチボールのように意思を伝え合うもので、相手を受け入れる心が大切でそのための最大の行為が聴くことということが印象的だったようです。今後、ファシリテーション及びリスクコミュニケーション研修を予定しています。

研修の延べ修了者数は増えているものの施業プランナーの実働者が少ない状況であることから、関係者の今後の積極的な研修受講・支援を期待します。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1351266
森林文化アカデミー 森林技術開発支援センターまで

『生産性向上対策現地検討会兼伐採・造林一貫作業システム勉強会』を開催しました

七宗町上麻生地区森林共同施業団地(ケーススタディ地区)

市町村森林整備計画の作成等への「森林管理署(国有林職員)の森林総合監理士による市町村への技術的援助を推進する」という目的のため、七宗町上麻生地区森林共同施業団地をケーススタディ地区(事例研究地区)として平成28年度に設定し、種々の勉強会等の取組を実施しています。

今般、当地区において、新型高性能林業機械(タワーヤード)による皆伐事業を実行する機会を得たことから、請負林業事業体を対象とした「生産性向上対策現地検討会」を開催し、作業見学等を通じて、生産性向上に重要な事業体の人材育成、技能向上の促進をはかることとしました。

また、当該皆伐事業は、伐採・造林一貫作業システムによるものでもあることから、労働投入量縮減(低コスト生産・造林)を目指した勉強会を併せて実施することとし、国有林関係者(森林施業プランナー、林業普及指導員等)

を広く含めた意見交換等を行う中から、地域の木材生産に関する民国、林業関係者の意識向上につなげることをしました。



事業概要等説明

作業見学に先立ち、岐阜森林管理署の今井主任地域林政調整官からケース

スタディ地区の取組について、熊崎森林技術指導官から事業概要および生産性向上実現プログラムへの取組について説明を行いました。その後、タワーヤードによる集材作業見学を経て、意見交換を実施しました。



タワーヤードによる全木集材作業見学

また、休憩を挟み、国有林の取り組む「伐採・造林一貫作業システム」についての説明を行った後、出席者から自由な意見等を述べていただきました。

第3期岐阜県森林づくり基本計画(H29~33)で「主伐・再造林の支援

強化」を新規施策に掲げる国有林はもとより、すでに平成25年度から試行を行っている国有林でも、まだ「伐採・造林一貫作業システム」の事例は十分とは言えず、緒に就いたばかりと言えます。



民国を通じた意見交換

今後も、民国連携によるこのような勉強会等を通じ、林業の成長産業化へむけた取組を進めてまいります。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 050-3160-6000

岐阜森林管理署まで



伐採作業をされるみなさまへ ～電気事故防止のお願い!!～

- ◆送電線は、直接電線に触れなくても感電します。送電線の近くで伐採または集運材索道架設作業等をされる場合は、事前に最寄りの事業所までご連絡ください。
- ◆万が一、送電線の上に倒してしまった場合は、電線に接触している木や、切れた電線には絶対に触らないで、その場から離れて、最寄りの事業所までご連絡ください。
- ◆事故が発生しますと、尊い人命が奪われます。また、停電により多くのお客さまにご迷惑をかけることとなり、起因者に対する補償問題にも発展します。

岐阜県内の送電線を
保守する電力会社

- 中部電力株式会社
- 北陸電力株式会社
- 関西電力株式会社
- 電源開発株式会社

※付近に送電線があることを下記に連絡していただければ、管轄する電力会社にて対応させていただきます。

事業所名	主な管轄区域	連絡先
岐阜電力センター送電課	岐阜市、羽島市、羽島郡、本巣市、瑞穂市、山県市、美濃市、関市、各務原市、大垣市、安八郡、揖斐郡、不破郡、養老郡、海津市	TEL(058)272-3222
加茂電力センター送電課	美濃加茂市、関市、美濃市、郡上市、加茂郡、可児市、多治見市、恵那市、土岐市、瑞浪市、中津川市、可児郡御嵩町	TEL(0574)28-1504
飛騨電力センター送電課	高山市、下呂市、飛騨市、大野郡白川村、富山県南砺市(一部)	TEL(0576)62-3953

※窓口は月～金曜日(祝日および年末年始除く)の8:30～17:10とさせていただきますので、連絡はお早めをお願いいたします。

森林・林業関係イベントカレンダー(9～10月)

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
9月5日(水)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間 学科 9:20～15:30 実技 15:30～16:30 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:11,340円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	南ひだ森林組合会議室(下呂市乗政25-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
9月6日(木)～ 9月7日(金)	伐木・チェーンソー 作業従事者 特別教育	●講習時間 6日 学科 8:30～17:40 7日 実技 8:30～17:30 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:18,900円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	6日 学科 南ひだ森林組合会議室(下呂市乗政25-1) 7日 実技 南ひだ森林組合土場(下呂市乗政25-1) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
10月2日(火)～ 10月3日(水)	機械集材装置 運転業務 特別教育	●講習時間 2日 学科 8:50～16:00 3日 実技 8:30～17:30 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:17,200円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	2日 学科 森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 3日 実技 美濃市首代地内(予定) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
10月11日(木)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間 学科 9:20～15:30 実技 15:30～16:30 ●申込:開催日の10日前まで ●受講料:11,340円(本代含む)(振込み) ●定員:30名(定員になり次第締め切ります。)	森林文化センター(岐阜市六条江東2-5-6) 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



「山ヒル。」

先日、現場に出た際、足を山ヒルに吸われました。

私の地元は飛騨であり、少年時代は山の中を駆け巡り遊んでいました。そのため、山の中で熊やカモシカを見たこと、ウルシにかぶれたことなど、多々ありましたが、山ヒルに吸われたことは初めてであり、かなり苦い経験となりました。

現場からの帰路、飛騨に山ヒルはいないということを上司から聞き、調べてみると飛騨に山ヒルがないということが一般論であることを知りました。それを知り、同時に頭をよぎったのは飛騨にはニホンジカはいないという十数年前までの一般論でした。

今では飛騨の山にニホンジカは多数存在し、十数年前とは状況が大きく変わり、当時の一般論は覆った結果となりました。山ヒルにおいてはニホンジカ同様、現在の一般論が覆らないことを切実に願っています。

「森林のたより」編集委員 富本 守

イベント情報

10月1日発行

連載

- 山の歳時記(158)
- 山のおじゃまむし(327)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(70)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(68)

清流の国ぎふ森林・環境税

- わがまちの森林・環境行政(22)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

10月号
予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1665回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,500	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	11,700	—	
		4 m	20~22cm	13,800	—	
			24~28cm	12,500	—	
			30cm以上	12,000	18,000	
	ひのき	3 m	16~18cm	17,200	—	
			20cm以上	15,300	—	
		4 m	16~22cm	17,500	—	
			24~28cm	15,500	—	
			30cm以上	14,500	—	
6 m	16~18cm	22,500	—			
第1241回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	
			24~28cm	11,500	—	
		30cm以上	11,000	—		
	ひのき	3 m	16~18cm	16,500	—	
			20~22cm	14,000	—	
		30cm以上	16,000	31,000		
	まつ	4 m	24~28cm	9,000	—	
			30cm以上	9,000	—	
	ひめこ	4 m	24~28cm	12,000	—	
			30cm以上	13,000	—	
5 m		30cm以上	—	—		
くり	4 m	24cm以上	19,000	130,000		
第1573回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,700	13,400	
			22~28cm	13,000	20,000	
	ひのき	3 m	16~20cm	17,500	24,000	
			22~28cm	14,900	23,000	
		4 m	30cm以上上元	13,600	23,000	
			13cm以下	9,000	—	
	4 m	22~28cm	15,500	23,000		
		30cm以上上元	20,000	30,000		
	6 m	18~20cm	27,600	—		
まつ	4 m	22~28cm梁	7,000	—		
		30cm以上上元	9,000	—		



木材市場

全般的に横ばいで推移

【商況】

猛暑による干割れ等、材の傷みを考慮し相場は保合。樹皮の剥離した良材、構造材向け丸太は売りづらいため、留意ください。スギ並材太物(50cm上~)3m需要あります。ヒノキ2m元曲りは売りづらく、造材の再検討。袴無、矢高5cm以内が有利。製紙パルプ向け広葉樹原木は納材規格変更があり、共販所担当者に連絡ください。(岐阜)

良材が少なく弱気の展開。スギ太物4m欠陥材は売りづらい。広葉樹は、良材を除き弱い。全般的に入荷が薄い状態となっておりますので出荷者各位のご協力をお願い致します。虫害が発生する季節となり、薬剤散布をしておりますが、伐採後速やかに搬出をお願いします。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m、3m、4m、6mは応札も多く横ばい。ヒノキ並材は3m、4mとも(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)は価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木 良材は応札多くやや高値、二番玉並材3m、4mとも(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。造材(玉切り)は、元株の処理・余尺及び段切り・斜め切り等ないよう出材をお願いします。(東濃)

製品卸売標準価格 (7月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
		3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
		3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
		3000	120	120	(東濃松)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集ウ成ド材	柱	3000	105	105	国産5層	60,000	(1,980)	→
		3000	120	120	国産5層	61,000	(2,600)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (7月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	317	米榎	へム(アラスカ産)	299
	コースト(目荒)	324	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

SCM (サプライチェーンマネジメント)

木材用語一メモ

複数の企業間で統合的な物流システムを構築し、経営成果を高めるための管理手法。林業・木材産業においても、ICT(情報通信技術)を活用した需給情報の共有化によって、木材生産・流通のコストダウンと木材価格の向上を図る「木材SCM」が注目されています。